

# 一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

平成 24 年 8 月 24 日

多摩市議会議員 向井かおり

多摩市議会議長 折戸小夜子 殿

## 質問項目

多摩市みどりと環境基本計画の実現に向けて

## 答弁者

市長

受付	平成 年 月 日	No.
	午前・午後 時 分	

\* 黒インクまたは黒色の  
ボールペンでご記入下さい。

## 項 目 別 質 問 内 容

環境省では現在、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の成果を踏まえ、中央環境審議会生物多様性国家戦略小委員会において生物多様性国家戦略の見直しを進めています。来月、インドで開催される COP11 までに、2015 年までの行動計画を合わせた戦略の見直しを求められているためです。東京都は既に今年5月、「緑施策の新展開～生物多様性の保全に向けた基本戦略」を発表しました。そして多摩市が今年度策定した平成33年度までの基本指針「多摩しみどりと環境基本計画」にも、生物多様性確保が筆頭に掲げられました。国は各自治体の地域戦略のボトムアップによる国家戦略の実現を目指していることから、多摩しみどりと環境基本計画をいかに東京都と連携しながら実効性あるものにできるかが注目されます。

さて多摩市環境基本計画は30年の計画であり、現在、10年が経過したところです。これまでの10年を振り返ると、その間に牽引すべき「環境部」はなくなり、ニュータウンの緑は維持管理がおぼつかなくなり、ニュータウン以外の地域の畑や樹林は消失が止まりません。ほぼ全市が市街化区域だから当然と考えるのではなく、みずやみどり、生き物が暮らしとともにある豊かな住宅都市を目指すことが当初の目標だったはずで、その実現に市民とともに向かう姿勢こそが自治基本条例をもつ多摩市の魅力であり、この街に住みたいと人をひきつける価値につながるはずで、

市長は「みどりのルネッサンス」を掲げました。剪定費用削減のための大掛かりな伐採事業と揶揄する声は少なくありませんが、「ルネッサンス」は市民から湧き起こった人間性への回帰です。四季ある国、みずとみどり豊かな国の中で、わずかに残る武蔵野の自然とニュータウンを抱く多摩市をどのように次世代に受け渡せるのか。みどりと環境基本計画策定を、市民みんなが考え、その責務を分かち合う契機にしたいと考え、以下、質問いたします。

1. 前多摩市環境基本計画の達成度、あるいは達成できなかった原因等の振り返りは次へ進むために最も欠かせないものです。総括の方法と新たな課題抽出、改善のための議論はどのような方法で行われたのでしょうか。また、その議論の過程から、新しく設置される環境部が果たす役割が見えてきたはずで、議論の内容と組織改正への反映についてお知らせ下さい。
2. みどりと環境基本計画を実効性あるものにしていくためには、市民への広がりをもたらすセンター機能が必要と考えます。多摩市グリーンライブセンターは設立当初、「多摩市都市緑化植物園」との位置づけでスタートしたために、その業務内容は「緑化に関する相談・指導、緑化に関する講習会・講演会、緑化に関する各種植物の展示、緑化に関する知識の普及・啓発」と、緑化に特化されています。一方で緑化、その一方ではみどりが増え過ぎたと伐採を強化するというのは、厳しい財政下では無駄遣いと言われても仕方ありません。時代にふさわしいセ

**項 目 別 質 問 内 容**

ンター機能を定め、「効果的で参加型」の市民との協働につなぐ必要があると考えますが、市の考えをうかがいます。

3. 多摩市教育委員会の進める 2050 年の大人づくりには期待を寄せてますが、教育委員会だけで成し得るものでないのは明白です。身体で感じる、経験を通じて知識や技術を身につける、実践することが ESD には不可欠であることから、ESD を教育委員会とともに進めるべき立場にある市の考えと、基本計画推進にあたっての教育の位置づけをお示し下さい。

**資料要求欄** (資料要求がある場合は、以下に記入してください。)